

令和6年度第2回佐倉市総合教育会議議事録

期 日 令和7年2月19日（水）
開 会 午後1時30分
閉 会 午後2時30分
場 所 佐倉市役所 社会福祉センター3階中会議室

出席者

佐倉市長	西田三十五
佐倉市教育委員会教育長	圓城寺一雄
佐倉市教育委員会教育長職務代理者	吉村真理子
佐倉市教育委員会委員	菅谷 義範
佐倉市教育委員会委員	清水 弥生
佐倉市教育委員会委員	柴内 靖

説明職員

企画政策部長	向後 昌弘
企画政策部企画政策課長	上野 裕子
魅力推進部文化課長	富田健一郎
教育委員会事務局教育部長	緑川 義徳
教育委員会事務局教育総務課長	宮崎由美子
教育委員会事務局学務課長	村上 武宏
教育委員会事務局指導課長	榎本 泰之
教育委員会事務局教育センター所長	神成 裕尊
教育委員会事務局社会教育課長	舎人 樹央

事務局職員

企画政策課計画推進班長	秋葉 一幸
教育総務課教育総務班長（企画政策課併任）	千々岩和代
教育総務課企画財務班長（企画政策課併任）	伊藤 浩司

企画政策部長

こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回総合教育会議を開催していただきたいと存じます。皆様方におかれましては、ご多用の中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。私、総合教育会議を所管しております企画政策部長、向後でございます。どうぞよろしくお願い

いをいたします。

本日傍聴は、ないようでございますので、これから会議のほうに入っていただければと思います。

では、開催に先立ちまして、西田市長より一言ご挨拶をお願いいたします。

西田市長

皆さん、改めましてこんにちは。市長の西田でございます。本日は、大変ご多用の中、令和6年度第2回佐倉市総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。教育委員の皆さんにおかれましては、日頃より佐倉の子どもたちの健やかな成長のため様々な分野でご尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、今年度は市制70周年ということで、これを記念すべきイベントを数多く開催してまいりました。特に佐倉青春文化祭、そして市制施行70周年記念式典はその中心的なイベントとして位置づけ、佐倉市を次世代に継承する機会として多くの皆さんとご一緒にこの節目の年をお祝いすることができました。記念式典におきましては、本日ご出席をいただいております教育委員の菅谷先生をはじめ、佐倉の礎を築いてくださった皆さんに感謝の気持ちをお伝えし、そのご功績を盛大にたたえることができました。

また、佐倉青春文化祭におきましては、これからの佐倉市を担う市内の小中学生や県立学校の生徒さんに企画の段階から夏休み期間のリハーサル、そして当日の運営まで多岐にわたりご協力をいただきましたことは、私といたしましても大変喜ばしく思っております。参加した児童生徒の皆さんの晴れ晴れしい姿、達成感に満ちた笑顔がとても印象的であり、市といたしましては今後も若い世代が活躍できる場、小さな成功体験を積み重ねることができる環境を引き続き提供してまいりたいと考えております。

また、教育施策に対し、より一層尽力していく考えでございますので、皆様方のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

本日は、昨年10月付けで新たに教育委員にご就任いただきました清水弥生さんが総合教育会議初出席となっております。会議におきましては、これまで同様委員の皆さんそれぞれのお立場から忌憚のない意見をお聞かせいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げまして、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろし

くお願いいたします。

企画政策部長

ありがとうございました。
それでは、早速議事のほうに入っていただきたいと存じます。
これ以降の進行につきましては、西田市長のほうでよろしくお願いいたします。

【協議・調整事項】

①令和6年度教育大綱に基づく主要施策の実施状況について

西田市長

それでは、令和6年度の第2回目の総合教育会議ということで、式次第に沿って議事を進めてまいりたいと考えております。
本日の議事は2件でございます。
初めに、令和6年度佐倉市教育大綱に基づく主要施策の実施状況について、事務局からの説明を求めます。

企画政策課長

はい。

西田市長

上野課長。座ったままでご説明願います。

企画政策課長

それでは、着座で失礼いたします。企画政策課長をしております上野でございます。令和6年度教育大綱に基づく主要施策の実施状況について、概要のご説明をいたします。
佐倉市教育大綱につきましては、佐倉市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の方向性を定めたもので、この総合教育会議において協議を重ね、策定されたものでございます。本日は、この教育大綱につながる重点的な取組状況について、教育ビジョン中期推進計画の重点事業ごとに整理をしたものをご報告させていただきます。
なお、まだ年度途中でございまして、下半期の進捗概要の一部と取組指標の数値につきましては見込み値ということで記載をしておりますので、資料のほう、その点ご了承いただければと思います。
内容につきましては、教育総務課長から説明をさしあげます。

教育総務課長 市長。

西田市長 宮崎総務課長。

教育総務課長 教育総務課長の宮崎でございます。令和6年度教育大綱に基づく教育施策の実施状況についてご説明いたします。

資料1をお願いいたします。教育大綱に定める4つの基本方針に沿って佐倉市教育委員会で定めております佐倉教育ビジョン中期推進計画の重点事業を当てはめて、事業内容などを記載しているものでございます。

それでは、方針ごとにご説明をいたします。資料の1ページをお願いいたします。基本方針1、「生きる力を育む学校教育を充実させ、人権・平和教育を推進します」では、進展する社会の中で子どもたちが力強く生きていくため、確かな学力や豊かな心、健やかな体を育てていくことやふるさと佐倉への愛着と誇りの涵養などを趣旨としております。

資料の2ページ、をお願いいたします。ナンバー4、部活動地域移行の推進では、市内11校11部活の地域移行を実証実験として行い、本事業の効果や課題を整理いたしました。

また、4ページのほうをお願いいたします。ナンバー7、食育の推進では、城下町佐倉・えどぐるめ献立を実施するなど、児童生徒に身近な学校給食を通じて食に関する正しい理解の促進に努めました。このほかGIGAスクール構想の推進、学校教育における佐倉学の推進など、7事業を重点事業として実施いたしました。

続きまして、資料の5ページをお願いいたします。基本方針2、「学校・家庭・地域が連携・協働し、安心できる教育環境を整備します」では、地域に開かれた学校づくりを推進するために、いじめ根絶に向けた取組など、安心して学校に通える教育環境の整備を趣旨としております。

6ページをお願いいたします。ナンバー11、特別支援教育の推進では、医療的ケア児が在籍する3校の小中学校へ6名の看護師を新たに配置いたしました。

また、8ページをお願いいたします。ナンバー15、いじめ防止対策推進事業では、8月のいじめ防止子供サミットを開催後、参加した児童生徒が学んだことを自分の学校で発表するなど、いじめ防止に対する意識啓発を効果的に促進いたしました。このほか給食施設設備の整備や通学路の安全確保、教育相談の充実など、9事業を重点事業として実施いたしま

した。

続きまして、資料の10ページをお願いいたします。基本方針3、「生涯にわたる学びを支援します」では、市民の学習ニーズとライフステージに応じた学習機会の提供やスポーツに親しむ環境を維持、整備し、心と体の健康づくりを推進することなどを趣旨としております。

ナンバー17、「佐倉市教育の日」の推進では、11月16日の佐倉市教育の日を中心に教育関連行事を開催し、多くの市民にご参加いただくことで教育に対する意識向上に努めました。このほか市民カレッジや生涯学習における佐倉学の推進など、4事業を重点事業として実施いたしました。

続きまして、資料の12ページをお願いいたします。基本方針4、「歴史・文化資産の保全・活用を推進し、芸術・文化を振興します」では、日本遺産に認定された歴史的な町並みや貴重な文化財を活用し、地域文化の振興に努めるなどを趣旨としております。

ナンバー22、文化財普及活動の推進では、フェイスブックやインスタグラムを活用して市内に数多く残る文化財や歴史文化資産などを周知いたしました。このほか井野長割遺跡の保全・整備と活用など、3事業を重点事業として実施いたしました。

令和6年度教育大綱に基づく主要施策の実施状況の説明につきましては以上となります。

西田市長

上野課長、宮崎課長、ありがとうございます。

それでは、ただいま事務局からの本年度の実施状況について説明がありましたが、この件につきまして教育委員会としての何か課題点やご意見、ご質問等がございましたらお聞かせいただきますよう、お願いをいたします。

菅谷委員

はい。

西田市長

菅谷委員。

菅谷委員

説明ありがとうございます。おおむね順調に進んでいると思います。いつもお話ししているのですけれども、目標値はちょっと低めに見込んでいるところもあるのかなというふうに思って、もう少し大胆に目標値を上げて努力をしていただくほうがむしろいいのかなと思います。結果が悪くても、そ

それは努力をしたということでありますので、それでいいのではないかなとは思うのです。

それで、幾つか細かいところで、例えば7ページの教育懇話会の開催ですが、一応目標は100%にしてあります。ただ、今は64%ということで、これはコロナの感染症とかインフルエンザの感染症もありますので、なかなか十分動けないと思いますけれども、目標を100%に置いていただくことは次期にもやっていただきたいと思いますので、ただそれをもう少し積極的にということ、ちょっと最近、少しこの活動が落ちているのではないかなと思っています。

それから、いじめの防止、8ページですが、これは一応95%以上は目標としてはいいかと思いますが、やはり100%を目指すということが一番大事だと思いますので、その辺もちょっとお考えいただいたほうがいいのかなと思います。

それから、あとは市民カレッジのほうは、これはいつもやはり高齢の、10ページですけれども、これはもう既に2月の末というか中旬なので、63%でちょっと寂しいかなという気はいたします。ですから、この辺も含めてということで、やはり社会教育のほうの充実も必要だろうと思いますので、この辺もちょっと検討課題かなとは思っています。

それで、教育の日の参加者がかなり大幅に増えているので、これは随分啓発をしていただいた成果かなと思います。これは10ページの上の教育の日の参加者ですね、各関連行事、これはPRができていますので、引き続き次年度もしっかり重点を置いてやっていただきたいなと思っています。

それから、11ページの佐倉学、ナンバー19なのですけれども、なかなか進まないというのが実情かなと思います。28%の目標なのですけれども、これも広く市民の方々に浸透していただくようにということで、その辺もちょっと次年度の課題かなとは思っています。

あと、給食については自校方式、これ非常にいいと思っていまして、ぜひ財政苦しい折、続けていただければなと思っています。やっぱりセンター方式ですといろいろ、児童生徒が温かいもの食べられなかったり、それから食中毒が起きたときに一遍に広がったりとか、そういう危険もありますし、それから何より栄養士さんがしっかり栄養を考えてやっていただいていますので、将来的にはこれは非常にいい方向なので、ぜひ続けていただきたいと。

大体ざっとこんな感じだと思います。

西田市長 ありがとうございます。
何か事務局からも先生の話を受けて事務局、なにかありますか。

社会教育課長 はい。

西田市長 舎人課長。

社会教育課長 社会教育課、舎人でございます。菅谷委員のほうから最初に、やっぱり目標値が低いということで、一つ佐倉学の推進というところを挙げられているところなのですが、10ページの佐倉市教育の日のところの参加者人数が増えているというところなのですが、昨年から月替わりで夢咲くら館を中心に佐倉市に関するパネル展なんかをやっている関係がございまして、見学に来てくださっている方は増えているというところでございます。ただ、参加者は増えているのですが、では佐倉学というものを知っているかと言われると、なかなかまだそこまでの結果が伴っていないというのが現状でございます。今後もちろんこういうパネル展をはじめ、例えば開催場所の検討、それからそのパネルにまつわる、例えば講演会を実施してみるとか、もう少し単発でやるのではなくて、何かいろんなことが連動したような取組、他市では結構やっている事例もございまして、そういうのをもう少し総合的な進捗の仕方がないかなというふうにとちょっと考えているところでございます。
以上でございます。

西田市長 ありがとうございます。
富田課長、カレッジとか何かが変わる、これから課長としてどういうふうにもまた進めるというか、考えというかある。

文化課長 はい。

西田市長 では、富田課長。

文化課長 お久しぶりでございます。魅力推進部の文化課長の富田でございます。
前年、中央公民館の担当をさせていただきまして、市民カ

レッジにつきましてはなかなか高齢化が進んでいるのですが、やはり元気なおじいちゃん、おばあちゃんがいるので、その辺今の職員にもそうですけれども、精力的に広報活動を行って、次年度、コロナもそろそろ明けてきていますので、受講生を増やすというか、どうにか定員に達するように努力をしているかと思えます。今後学生が増えればですが、講座数の増加とか等も検討のほうになってくるかと思うのですが、なかなか社会教育指導員の先生の勤務時間が延ばせないという実態があるので、この辺は実情に合わせてどういうふうにするかというのは今後の課題かと思うのですが、よりよい生涯学習を推奨していけるように頑張っていきたいと中央公民館では思っております。

以上です。

西田市長 ありがとうございます。

社会教育課長 はい。

西田市長 どうぞ。

社会教育課長 社会教育課、舎人でございます。まず、今回卒業式が初めて、コロナ禍明けて4年ぶりぐらいになるのですが、在校生一同も参加することができて、在校生の方たちが卒業する人たちの成果であったりというのを見ることができたというところが大変効果があって、卒業生の方の今回卒業記念誌をやっぱり見ていくと、この活動本当にいいと思うので、自分もこの経験を生かして市民カレッジ、地域で生かしていきたいということがあるので、そういうご意見たくさんあったので、今後もそのやり方自体がすごく間違っているわけではないのかなというふうには思っているのです。

ただ、先ほど富田課長からあったとおり、入学するときに既にもう70歳を超えている、平均が70歳を超えていて、高い方はもう80近い方がいらっしゃる中で、なかなかその地域活動に具体的に結びつくにはまだ遠いところではあるのですが、今後もう少しそういうところは考えていくのと、併せて来年度以降なのですが、やはり1回もう卒業した方であっても、またこれからちょっと市民カレッジどんなものかと試そうかななんて思っている方もいると思いますので、カレッジのお試しというわけではないのですが、カレッジのカリキュ

ラムの中の一般の人が参加できそうな講座等に参加できる機会をつくっていきまして、そういうふうに市民カレッジをもう少し身近に感じていただく機会をつくっていくことで活動がもう少し盛況になればというふうに、中央公民館ではすごく熱く語っておりましたので、今後期待したいなと思っております。

西田市長

やっぱり今課長が言ったように、おじいちゃん、おばあちゃんは行きたいな、僕はやっぱり佐倉市はちょっとおじいちゃん、おばあちゃんが非常に多いところなのですが、市ではトップクラスというか多いところなので、おじいちゃん、おばあちゃんがいることは僕は財産だと、自分は市長として認識しているのだけれども、もう少しみんな、今日教育委員会関係ではなく、例えばコミュニティバスを中央公民館のほうに回すとか、例えばデマンド交通がなかなかあれだと言っているのだから、乗り合いのタクシーみたいなので受講生がその日だけは車に乗り合ってタクシーで来るとか、何かやっぱりそういう部分という、外に出るというところはもう少しやっぱり全体的に、教育委員会だけではなく都市部とか、そういうところも使ってやってくれれば、家に籠もるおじいちゃん、おばあちゃんではなく一歩でも外に出るおじいちゃん、おばあちゃんだと認知症も遅れる、先生がいる前であれですけども、認知症が遅れるというか、ならないとかいろんなふうになると思うので、やっぱり生きがい、子どもにも生きがいだけども、おじいちゃん、おばあちゃんにも生きがいを与えることがやっぱり大切ではないかなと思うので、今後研究してほしいなと思います。

教育長職務代理者 はい。

西田市長 吉村職務代理者。

教育長職務代理者 すみません、ありがとうございます。

2ページの4番の部活動の地域移行のところ、すごく佐倉市さんとして力を入れてやられているところだと思うのですが、活動が楽しくなったと感じる生徒の割合が、取組指標80%のところ、100%ということで、すごく成果を上げられたのではないかなと思うのですが、具体的にどんなよかったという声が上がっているかというのをもし教えていただけたら

ありがたいです。

指導課長 はい。

西田市長 榎本課長。

指導課長 指導課長、榎本でございます。どのような点がいいかというところで、まずは一番に挙げられるのは、専門的な指導が常に受けられるようになったというところがほとんどの、今11クラブで行われていますけれども、11クラブの中での子どもたちからそのような話があります。あとは、活動自体がやはり専門的な指導が受けられるので、子どもたちも充実していきます。やはり今まで教員によってはどうしても未経験の部活動を指導するということがありましたので、そうするとどうしても子どもたちにとっては活動が充実していないというようなことが多くありました。そういう面がすごく、子どもたちにとってはとてもいい部活動の地域移行の取組かなと考えています。
以上です。

吉村委員 はい。

西田市長 では、吉村委員。

教育長職務代理者 働き方改革ということとも併せて、とても一ついい試みだと思っておりますが、逆に保護者の方から先生とのつながりというふうなことで何かお声があったりしますでしょうか。

指導課長 はい。

西田市長 榎本課長。

指導課長 指導課長、榎本でございます。保護者の方からは先生に見ていただきたいと、今行っている11クラブですけれども、見ていただきたいとか、始まる当初はやはり不安だとか、そういったようなご意見はございました。ただ、進めていくうちに全くそのようなことはなくなりまして、子どもたちのやっぱり充実した活動の様子を見ることで、そういった不安も払拭していくと。やはり先ほどもお話ししたように、専門的な

ことを常に教えていただけるということがすごく大事なのだなということを実感している保護者の方がとても多いように思います。

以上です。

西田市長

大丈夫ですか。ありがとうございます。

柴内委員

はい。

西田市長

では、柴内委員。

柴内委員

進捗の状況については、おおむねよく進んでいるのではないかなという感じはしますので、幾つかちょっとお話ししたいところがあります。

まず、1 ページ目のナンバー 2、G I G A スクール構想の推進のところ、やっぱり質の高い授業を I C T を活用してやるとなれば、一番大事なのが教師の力量が結構大事だと思うのです。そういう意味では、ここに児童生徒の話だけではなくて教員の指導力の向上という部分で、きちっと定期的に、教育委員会が指導するなりでもいいので研修会をやって、指導力の向上を図るようにお願いできないかなということで、まず 1 点です。

それから、2 点目は 2 ページ目のナンバー 4 のところ、今吉村委員のほうからお話がありましたけれども、部活動の地域移行の推進ということで、2 月の 7 日に全国の市町村教育委員会の研究協議会に私と教育長で参加をさせていただいて、全国の状況の話だったり文科省の話があって、文部科学省としては部活動の地域移行からさらに進めて地域展開という言葉を使って、今後もっと進めていきたいという話がありました。

ただ、実際の各市町村の状況を聞くと、佐倉市と同じように手探りながら少しずつ進めているような状況で、皆同じような課題を持っていますので、お互いにそういう情報交換を取り入れながらどんなふうに行っているかという手だてを集めていって、佐倉市なりの部活動の地域移行、地域展開を進めてもらえたらと思いますので、結構課題がやっぱりあるのではないかなと思いますので、予算の問題もそうですし、多く挙げられたのは受皿の部分、要するに本当に部活動を地域移行して、受けもらえる団体を探す、またはそういうスポ

ーツクラブを探すということも結構四苦八苦しているという話もありましたので、そんな状況も踏まえて、さらに進めていただけたらいいかなというふうに思います。

続いて、7ページですか、教育懇話会の開催ということで、もう少し先ほど菅谷委員さんのほうからもお話がありましたけれども、より充実を図っていく必要があるかなというふうには、同じように意見を持っています。今回千代田小のほうの参加をしてきて、基礎的な内容の部分では前半に千葉県警察のほうからスマホに関する話をしてもらったのですが、その中で、実は子どもたちが前にいて、その後地域の方、保護者の方がいて、みんなでそれを聞くということが非常に僕はメリットがあったのではないかなと。そういう意味では非常によかったかなというふうに思いました。

ただ、一方で後半にグループワークをやったときにちょっと時間が足りなくて、グループで十二、三人集まって、全員が意見をちゃんと言えたかというと言えていなくて、その辺はさらにまたどうやってやったほうがいいのかという部分はお検討いただければと。ただ、当日寒くて、体育館で、みんな地域の方も保護者の方もちょっと震えながらやっていた部分がありまして、ああいうところ、私も学校現場だから経験ありますけれども、体育館でそのままグループワークでやるのに寒いかなって、何か工夫したほうがいいのかと。やっぱり寒いと、また次やったときにもうちょっと行きたくないなという気持ちになってしまうので、その辺の工夫を図っていただけたらいいかなというふうに思います。

それから、最後です、通学路の安全確保についてということで、やっぱり前もお話ししたのですけれども、スクールガードのボランティアの関係では非常に皆さん方が協力していただいて、非常に子どもたちの安全が図られているなと思う一方で、この前のグループワークでもスクールガードリーダーの高齢化が問題になっていて、どうやってつくっていくかという部分を一つ視点として持っていないといけないかなというふうに思います。多分警備会社の巡回については来年度以降どうなるのか、ちょっと分かりませんが、これ難しいのは学校の先生方も当然子どもたちの登下校は心配する。ただ、一方で働き方改革の中で、学校の先生方が登下校の安全を地域まで出て行ってやる仕事がいいのかという論議もやっぱりあるわけで、その辺を踏まえて先生方の負担度があまり高くならないようにしつつも、一番大事なのは子ども

たちの安全なので、安全をどうやって確保するのかということをもたまたさらに研究していただけたらいいかなというふうに思います。

すみません、以上です。

西田市長

ありがとうございました。

柴内委員から幾つかありましたので、順次答えられる部分は答えていただきたいと思います。

指導課長

市長。

西田市長

榎本課長。

指導課長

指導課長、榎本でございます。最初に、柴内委員からありましたG I G Aスクール構想の推進についてですけれども、教職員の研修等を各学校で様々な形で行っているところです。年々教職員の活用能力というのは高まってきていまして、これは県の調査なのですけれども、全県よりも佐倉市の先生方のその能力、そちらのほうも高い状況ではありますので、今後もしっかりと進めていくようにしたいと思います。今ホームページ上に各学校の取組とか、動画等も含めて載せているところもあります。そういったものを見て先生方が研究していくというようなところも行っておりますので、これはやはり指導課としても先生方の能力は高めていかななくてはならないと思っていますので、引き続きしっかりと行ってまいりたいと思います。

以上です。

西田市長

続けて、村上課長。

学務課長

学務課長、村上です。今のG I G Aスクール構想に関してなのですけれども、学務課のほうでは主にハード面の充実のほうを今進めておりまして、指導課のほうとも今後連携していきながら、今年9月にタブレットを、校務用パソコンの更新の時期を迎えますので、新しい機種になるのに合わせて、担当のほうには活用の充実を図っていけるように啓発のほうはしていきたいと思っております。

以上になります。

西田市長 ありがとうございます。

教育総務課長 市長。

西田市長 では、宮崎課長。

教育総務課長 教育総務課長の宮崎でございます。私のほうからは教育懇話会についてお話しさせていただきたいと思っております。先ほどお子さんたちと一緒に千葉県警の講話を聞いていて、すごくいいメリットになったということでお話しいただきました。今までお子さんも一緒にというのはなかなかなかったと思っております。今回は私も一緒に参加させていただいて、とてもいい取組になったなと感じております。ただ、その後の意見交換の時間が短かったというところで、確かにそう私も感じたところがあるのですが、お子さんたちの参加もお願いするとなると、下校の時間等もちよっと気になければならない部分もありまして、多少ちよっと短くなってしまったというところもでございます。委員おっしゃるとおりその点は、これからは学校さんのほうともご協力いただきながら進めておりますので、ご協力いただきながら、より参加していただけるような会にしたいのと、先ほど菅谷委員のほうからは目標値のほうがというところもお話しいただきました。先ほどの体育館寒いとか時間の問題とか、いろいろご指摘いただいた分、そこを改善していくことで取組の目標値の達成率も上げていきたいなと感じております。

以上です。

西田市長 ありがとうございます。
ほかに何か、課長、事務局いいですか。
では先生、再度。

柴内委員 今課長さんがおっしゃった中で、ちょっと思ったのだけれども、スマホの問題ってすごく今の大きな問題で、子どもたちにとっても、保護者の方にとっても。実はおじいちゃん、おばあちゃんも、また地域の方もスマホの問題って結構大きいよねって意識していると。グループワークは別問題として、ただそういう講演会やるとなかなか保護者の方が集まってこないという部分があったりするので、逆に授業参観の日なんかそういうのを充ててしまって、授業参観のときは結構保

護者の方がたくさん集まってくれる、そういう場面で子どもたちと保護者の方が一緒に聞くみたいな、新しい何か企画的なものをつくっていくといいのかなと。話合いも各教室で暖かい部屋で、その地域の方のグループだとか子どもたちと何か展開ができるのではないかなと。だから、何か各学校にまたご指導いただいて、いい展開の仕方を考えていただいたり、教育懇話会の充実を図ってもらえたらいいかなというふうに思います。

西田市長

ありがとうございます。

今柴内委員さんが言ったように、そういう授業参観とか、逆に向こうから来ているときに何かそういうことができれば、こっちからこうだという前にできることもあるのではないかなと思うので、その辺はちょっと研究してもらいたいと思います。

清水委員

はい。

西田市長

では、初出場ではないですけれども、清水委員、よろしくをお願いします。

清水委員

よろしくをお願いします。今の話題で、教育懇話会に私は出席することはできなかつたのですけれども、子どもたちと地域の方と保護者の方と教育関係の方が一堂に会する機会って本当にないと思うので、とてもいい会だったのだなというふうに思います。

私がPTAをさせてもらっていたときには、地域の方とPTAと学校の先生とで子どもたちの通学路のことを考えたり、そういう地域の方が学校に入るという機会が、私コロナの明けたかなぐらいの時期だったので、年に1回、そのときは復活したときだったのですけれども、地域に開かれた学校づくりって私も本当に大切だなと思うので、地域の方がどんどん学校に入る機会というのはたくさんあるといいなと思っていて、その教育懇話会というイベントを準備するってなると本当に大変だと思うので、そういう授業参観のときに、私の子どもの小学校は、うちの娘は4年生なのですけれども、今年度の授業参観の中でラインの使い方とか、学校生徒の中でスマホ持っている割合がもう80%、4年生の中で80%を超えているというところから、ラインは設定をこういうふうに

したほうがよいという具体的な指導であったり、授業参観の時間がそういうふうに充てられていたことがあって、とても勉強になったと思うので、それは学校の独自のプログラムだったかもしれないのですけれども、授業参観というと保護者の方は行くと思うので、とてもいいなと思いました。

それとはほかに、ナンバー7、4ページの食育の推進のところなのですけれども、私もいつも献立表を毎月見ている、こんな津田仙メニューだったり、いろいろなメニューを工夫してくださっているのだなと思ってありがたく拝見しているのですけれども、食育の推進の中で、地域の方と子どもたちが今ここで食べている給食がつながるような取組がもう少しあってもいいのではないのかなというふうに思います。有機米を納品してくださったときとか、有機野菜を学校によっては納品している学校もあると思うので、納品してくださっているその農家さんが給食の時間のときの放送で、今日使っているお野菜がどういうふうに作られたかとか、そういうふうに学校の給食の時間に放送して必ず流れていると思うので、そういう取組も農家さんはとても協力してくれると思うので、それは栄養士の先生だったり学校での取組になるかもしれないのですけれども、佐倉市としてもその食育の推進の中に何か組み込んでいただくと現場の方たちが動きやすいのかなというふうに思います。

あとは、ナンバー13、通学路の安全確保の件なのですけれども、この資料の中に青パトは教育委員会の事務職員の方が来られているというのを私は初めて知って、とてもお忙しいと思うのに、この青パトでも見回りをしてくださっているのだなととても驚きだったのですけれども、学校の先生は学校の校内の安全を見守り、その通学路の多いところ、1人になるところまでついていくのってとても大変だと思うし、時間の問題もあると思うのですけれども、それと同じように教育委員会の事務局の方が青パトの市内に出るというのは、すごく時間も大変だと思うのですけれども、この事務局の方が行かれている理由というのを伺いたいと思うのと、あとアイアイプロジェクトというのがあるのが、私もそんなによくは分かっていないのですけれども、スクールガードボランティアさんは高齢化になっているし、成り手もどんどん少なくなっていると思うのですけれども、それとは別にそれぞれの自治会が独自に見回りをしていたり、あとは別に独自のボランティア団体が、私が関わっている団体でいくと、ワンちゃん

のお散歩中についでに子どもたちを見守るという活動をしている団体だったり、そういういろいろな活動をしている団体ってあると思うのですけれども、その方たちとうまく連携をして、実際に教育委員会の方たちが現場に出るのではなく、結果子どもたちの見守りが達成できる方法ってあるのではないのかなって思っていて、例えば「こうほう佐倉」に、市内ではこの小学校の学区ではこの見守りをしてきている団体がありますというのを載せるだけでも、その活動をしている方たちは市に認められたではないのですけれども、こういう活動をしていて誇りになるというかモチベーションにもなると思うし、何かそういう方法もあるのではないのかなというふうに思いました。

いろいろ本当にこれを読ませていただいて、たくさんの尽力していただいているのだなというのが分かりました。ありがとうございます。

以上です。

西田市長

ありがとうございました。

今清水委員がおっしゃったように、例えば青パトの場合も、去年か、報償金も少し上げて隣の危機管理のほうで取れるようになったり、あとはそういういろんなワンちゃんの散歩のときに、なかなか今教育長とかも指示しているのですけれども、マイナンバーカードを使ってポイントをためて、後々のそういうおじいちゃん、おばあちゃんが介護の何かでポイントをためたら使えるとか、やっぱりそういうのも今情報システム課に指示しているのだけれども、やっぱりいろんなことで、清水さんが言われるように、委員がおっしゃるように、何か地域ぐるみでできたらいいなというふうに思っているのも、その辺もまた教育委員会だけで考えるのではなく、僕が言っているオール佐倉というか、もう全体的に子どものために目を向けてやっていけたらと思います。何か全体的に清水さんの言っているもの、ご意見として頂戴するという事で、ではよろしくお願いします。

では、様々なご意見ありがとうございました。本年度は、新しい教育大綱がスタートした年度となりますが、各種の取組はおおむね良好に行われてきたと私自身理解いたしました。今後もさらなる取組の充実を図っていただければ幸いです。

なお、取組指標は事業の取組の安定として設定しているも

のだと思いますが、目標値に届かなかった取組については、その理由についてよく教育委員会の中で分析をしていただき、目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。また、今後に生かしていただければと思います。

【報告事項】

①いじめ問題に関する取組状況について

西田市長 それでは、続きまして報告事項に移りたいと思います。
いじめ問題に対する取組状況について、事務局からの説明を求めます。

指導課長 はい。

西田市長 榎本課長。

指導課長 指導課長、榎本でございます。私からは資料2、いじめ問題に関する取組状況についてご報告させていただきます。
まず初めに、事業に係る取組状況でございますが、本年度7月12日に佐倉市いじめ問題対策連絡協議会、そして4月25日、9月6日、2月4日に佐倉市いじめ対策調査会を開催いたしました。その中では、佐倉市内のいじめ問題対策への取組やいじめの未然防止の対策などについて、それぞれの委員の立場から多くの意見が寄せられました。
続いて、8月2日に佐倉市いじめ防止子供サミットを開催しております。全ての小中学校の代表者が市役所に集いまして、いじめについて、今回はSOSを出しやすくするにはどうしたらよいか考えよう、このようなテーマでグループ協議、そして発表を行いました。代表者は、話し合った内容を各学校に持ち帰りまして、全校集会やクラスまたは児童生徒会活動などを通して全校の児童生徒に発信しております。
また、12月の人権週間の期間を中心に、全小中学校ごとに人権集会などを開催いたしました。
次に、学校支援アドバイザー事業についてですが、佐倉市では学校支援アドバイザーを5名登用しており、各学校を巡回し、いじめ問題をはじめとする生徒指導に関する諸問題について各学校に指導助言を行っております。
続いて、今年度の12月末日までの市内のいじめの状況につ

いてお知らせさせていただきます。まず初めに、いじめの認知件数でございますが、小中学校合わせて706件の報告がございます。学校は、ささいなことであっても予期せぬ事態に転じることを常に想定し、組織として対応を進め、子どもたちの様子を見守り、必要に応じて指導、支援をしながら解決につなげております。

いじめの内容としましては、冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われるというものが431件と最も多い状況です。軽くぶつかられたり、遊んだふりをしてたたかれたり蹴られたりするというのが172件、嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりするというのが141件と続いております。これら3つの項目は、ほかの項目と比べて件数が多くなっている状況です。

続いて、発見のきっかけにつきましては、本人からの訴えが223件と最も多く、本人の保護者からの訴えが198件、担任教師による発見が76件と続いております。子どもたちがいじめの被害について近くの人に相談できるということは、とても重要であると考えております。各学校ではSOSの出し方教育を進めており、その成果として被害児童生徒本人から大人に相談しやすい環境が学校に構築されているものと捉えております。今後も各学校が子どもたちの状況をきめ細やかに見守りながら、早期発見、即日対応を合い言葉に、いじめ問題に丁寧に対応できるよう努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

西田市長

榎本課長、ありがとうございます。

ただいまいじめに関して様々な取組をされていることをご報告いただきましたが、最近のいじめの傾向やそれに対する対応などが委員の皆さんからございましたら、ご発言のほうをよろしくお願いします。

菅谷委員

はい。

西田市長

菅谷委員。

菅谷委員

ご説明ありがとうございます。教育委員会の皆さん、それから先生方、しっかりいじめに対応していただいて、非常にありがたく思っています。

事業に係る取組状況の（３）のところですが、これの防止子供サミット、前の教育委員会でもちょっとお願いしたのですけれども、各学校に持って帰って、しっかり参加した児童生徒に説明をしてもらうということで、大体全部終わっているようなお話でしたので、これはちょっと安心はしています。

それから、学校支援アドバイザーですが、今５名ということですが、幸い佐倉市の場合って重大なものは起こっていないのでいいとは思いますが、５名で足りるかどうかな、ちょっとその辺が心配なのです。学校の数からすると、各３小学校の拠点を持ちということなのですから、これだけで足りないのではないかなと、そういうことを考えています。予算措置もありますので、その辺の人員の増加というのはなかなか難しいかもしれませんが、ちょっとその辺の人数も考えていただければと思います。

それから、幸い佐倉市ではあまり重大なものは起こっていないのでいいのですけれども、この前大阪の泉南市の事例があって、かなり教育委員会の取組とか学校の先生の取組が非常に不信感を持たれるような取組でした。あと、寝屋川市でも市長さん直属の監察課というのをつくって対応しているという話がありますので、佐倉市ももしその重大な事案が出てきたら、その辺のことも考える必要があるのかなとは思っています。監察課というのは、専門にいじめの取組をしている課のようなので、その辺のこともあって、今後の状況にもよると思うのですけれども、そういうのがあるかということで、一回ご検討いただいてもいいのかなとは思っています。

以上です。

企画政策部長

はい。

西田市長

では、向後部長。

企画政策部長

企画政策部長、向後でございます。27年の法改正でこの総合教育会議というのが設置されて、そもそもの端緒となっているのが、やはり大津のほうであったいじめだというふうには我々は重々承知をしていますし、我々がこの場、会議に執行部というか市の行政の立場で参加しているというところには、やはりそういう問題を起こさせない、また起きたときにどうやって素早くというのでしょうか、迅速に対応していけ

るかというのが我々に課せられている課題だとは承知をしておりますので、今はないからといって安心するのではなくて、今ご指摘いただいたことを踏まえながら、より子どもたちをちゃんと守って成長させられるような、組織全体で考えていければなと思っております。

来年以降考えていることが1つありまして、教育委員会教育総務課のほうに教育施策というのでしょうか、行政をトータルで考えられるようにということで、室を1つ、今新しいものをつくろうとしておりまして、我々企画政策部の職員も今兼務の方向で検討させていただいています。ちょっとまだ組織のことなので、ここで明言することはなかなか厳しいのですけれども、いわゆる今まで教育委員会、あるいは市長部局という形でばらばらでやってきたものを、この会議同様に連携をしながら、佐倉市の子どもたちの健全な成長というのでしょうか、生きる力を高めていければというのが佐倉市の大きな方針として持っていますので、いろんなご意見、皆さんからいただきながら、取り入れられるところは取り入れていきたいというふうに考えております。

以上です。

西田市長 ありがとうございます。
 吉村委員、何かありますか。

教育長職務代理者 はい。

西田市長 吉村委員。

教育長職務代理者 いつも、教育委員会するときにも指導課長のほうから数のこととかご説明いただいているのですけれども、何か本当に今問題となっている大きな課題といたしますか、そういうのはないですかね。

指導課長 はい。

西田市長 榎本課長。

指導課長 指導課長、榎本でございます。重大な案件につきましては、今年度については、新たなものについては出てきておりません。ただ、常日頃から、特に今いじめの傾向として多くなっ

てきているのが、昔は暴力的なことも非常にあったのですけれども、そういうことよりも言葉による、件数からも見られるとおり、そのような嫌がらせが多くなっている状況がありまして、我々としましては、各学校にとにかく子どもたちの言語環境、言葉の使い方について整えるような取組を年間を通して行ってくださいというようなことを指示しております。学校によっては、先ほども少し申し上げたのですけれども、児童会や生徒会が中心となっていじめに対することをみんなで考えようというふうなことを行ったり、あとはいじめゼロ宣言というものをみんなで考えて、毎月それについて話題を取り上げていくとか、非常にいじめに対する取組がよくできているかなというふうには捉えております。今後も重大な、大きな案件が起こらないように、まずやはり未然防止の取組が一番大事ですので、そちらのほうはしっかり高めていきたいと思っております。

以上です。

柴内委員

はい。

西田市長

柴内委員。

柴内委員

私のほうは、時間の関係もあるでしょうから1点だけ。2番のいじめの状況のところ、(2)の状況です。これ12月末現在の数字ということで、例年この文部科学省の問題行動・不登校等調査に関する調査では、年度末に大体80%ぐらいは解消しているというような状況だと思うのですけれども、もちろん具体的にはゼロに、全部解消したというのが一番いいのでしょうかけれども、そういう意味ではまだまだこれ解消、取組中というのが287件というのがまだ続いていますので、できるだけ早く解消できるように、教育委員会として支援をしていただけたらありがたいなと思います。

以上です。

西田市長

どうもありがとうございました。

清水委員

はい。

西田市長

では、清水委員。

清水委員

学校支援アドバイザーという方がいらっしゃる、スクールカウンセラーという方もいらっしゃると思うのですが、スクールカウンセラーは市の所属ではないですね。なので、ちょっと難しいかと思うのですが、そのスクールカウンセラーの方はいじめの当事者の子どもたちのケアもしてくださると思うし、先生たちのケアもしてくださると思うので、未然に防ぐための先生たちの目をクリアにするという意味でも、スクールカウンセラーの方を大いに活用していただけたらいいのかなというふうに思っています。

以上です。

西田市長

ありがとうございます。
この辺は県からの配置でしたっけ。

圓城寺教育長

県の配置です。

西田市長

私としても一生懸命、県へ増員要望をしまいにありますので、実現できるように頑張ります。

では、よろしいですか。

では、私から申し上げますと、いじめ問題については、私としても非常に重要な問題だと認識しております。教育現場ではこれまでもご尽力いただいているものと思いますが、引き続き子どもたちが安心安全に学校生活を送れるよう、皆さんと力を合わせて頑張りたいと思います。

【事務連絡】

西田市長

それでは、事務局からの連絡があるようですので、よろしくお願いいたします。

企画政策課長

はい。

西田市長

上野課長。

企画政策課長

事務局からのご連絡なのですが、次回の会議の予定でございます。新年度入りまして、本年度と同様に6月か7月、このほうをめぐりに次回の会議の開催時期と考えさせていただいております。具体的な内容や日程につきましては、今後調整させていただきますので、それぞれご案内等差し上げ

たいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

西田市長

上野課長、ありがとうございました。
ただいまの説明のとおり進めてもよろしいでしょうか。

(全委員異議なし)

西田市長

ありがとうございます。
それでは、皆さんにおかれましては貴重な意見をいただき、
会議運営にご協力をいただきましたことに改めて御礼申し上げます。
以上をもちまして令和6年度第2回佐倉市総合教育会議を
終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。